

# 大牟田市立駛馬小学校

## 1 本校のESDの特徴

本校には、校区の東側に世界文化遺産「宮原坑」があり、南側に有明海に注いでいる2級河川「諏訪川」が流れている。また、近隣には多くの福祉施設があり、まちづくり協議会や公民館との地域活動も活発に行われている。このように、歴史や文化、自然環境、福祉に関することを体験的に学ぶことに適した地域である。この学習環境を生かし、世界文化遺産（SDG11）、海洋教育（SDG14）、福祉（SDG3）を学習対象としたESDを展開している。また、昨年度から海洋教育推進校として、環境教育の中核に海洋教育を位置づけ、更に発展させた取組を行っている。

## 2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

本校の学校教育目標「志を持ち、自ら考え行動できる児童の育成」のもと、ESDの実践を通して、「人格の発達や自立心、判断力などの人間性を育むとともに、他者との関係性、社会との関係性、自然環境との関係性を認識し、SDGをめざし、持続可能なまちづくりに向けて、自分ができることを考え行動する児童を育成する。」という目標を設定している。

3本柱である、福祉（SDG3）、世界文化遺産（SDG11）、海洋教育（SDG14）を各学年の発達段階に応じて、系統的に学習できるように指導内容を精査し、カリキュラムに広がりや深まりを持たせている。

## 3 特徴的な活動事例の紹介

### (1) 福祉教育の取組（SDG3）

5年生：「一人暮らし高齢者訪問」

自分たちの校区や大牟田市の高齢者がかかえる課題を捉え、地域の一人として住みやすい校区にするために、公民館長さんや民生委員さんの思いや願いについてお話を聞かせていただいた。また、認知症の方の生活や地域の安心・安全に向けた取組について分かったことや考えたことをもとに、自分達にできることを考え、高齢者の笑顔と安心の輪を広げたいという思いを持ち、「一人暮らし高齢者訪問」を行った（写真1）。実際の訪問では、全校児童による手紙や寄せ書きと一緒に、ニセ電話詐欺防止のチラシも配付した。警察署と連携して「ニセ電話詐欺 KIDS かせ隊（きづかせたい）」としての活動も継続して行っている（写真2）。



(写真1) 一人暮らし高齢者訪問の様子



(写真2) ニセ電話詐欺 KIDS かせ隊の活動の様子

### (2) 海洋教育・環境教育の取組（SDG14）

4年生：「クリーンアップ諏訪川・有明海」

諏訪川でカヌーに乗船し（写真3）、水面や護岸の様子について気づいたことを出し合った。そして、諏訪川の上流、中流、下流の水質やゴミを調査し、「諏訪川的环境を守るには何ができるか」という課題を持った。生活排水と水質の関係やペットボトルなどのプラスチックゴミ問題を調べる活動を通して、川に流れ込む水をきれいにすることの大切さを実感し、諏訪川や有明海的环境を守るために自分たちでできることを考えた。「生活排水、工業排水、生活ゴミ、プラスチックゴミ、地球温暖化」の各調査グループに分かれ、環境会議を開き、諏訪川的环境を守るために自分達にできることは何か考えた。その結果、各地域の人たちに向けて、ポイ捨てをしないように呼びかけるポスターを作成し、諏訪川流域の地区公民館に掲示して



(写真3) カヌーに乗船して、ゴミや匂いなどの調査をしている様子

もらい、多くの人に発信することができた。

### (3) 世界文化遺産教育の取組 (SDG11)

6年生：「駿馬の魅力発信プロジェクト」

駿馬の魅力である、明治日本の産業革命遺産の構成資産の1つである「宮原坑」でのボランティアガイドをさらにレベルアップさせるために、北九州市と中間市の小学校の校区にある官営八幡製鉄所旧本事務所や遠賀川水源池ポンプ室との関連を調べたり、石炭産業科学館よりGTを招いて、石炭が海底でできた理由を学んだりしたりした。

かつて、宮原坑と有明海にある三池港とは鉄道で結ばれており、採掘した石炭は、有明海を利用して日本各地に運ばれたり、世界各国に輸出されたりしていた。この有明海が、運輸としてだけのつながりだけでなく、石炭は4000万年前の有明海の恵みであり、海底資源として「宮原坑」と深いつながりがあったことを明らかにすることができた。また、「宮原坑」と「三池港」とのつながりについて、三池港のガイドの方に話を聞いたり、三池港についての動画やパンフレットを見たりしながら、新たに分かったことをガイドパネルに付加することで、内容の充実を図り、世界文化遺産「宮原坑」と「三池港」の魅力をもっと詳しく、多くの人に発信することができた(写真5)。



(写真4) 校区に明治産業革命遺産の構成資産を持つ学校との交流の様子。



(写真5) 修学旅行生にガイドをしている様子

## 4 本年度の成果と課題

### ○成果

- ・認知症の学習を行ったことで、高齢者に対する理解が更に深まった。高齢者訪問活動を行ったことで、地域の一員としての自覚が芽生えるとともに、これからも高齢者とのつながりを持って行動しようという意欲が高まった。
- ・クリーンアップ諏訪川・有明海の取組を通して、川の環境を守ることは、海の環境を守ることに繋がることになり、更に、地球温暖化への影響についても考えを深めることができた。また、多くの人々と協働して環境を守っていくために行動しようという意欲が高まった。
- ・駿馬の魅力発信プロジェクトの取組では、同じ明治産業革命遺産の構成資産を持つ学校との交流学習やGTの活用により、新たな視点での気づきを基に、宮原坑の価値を多くの人に知ってもらいたいという思いが高まり、発信内容や方法を工夫し、修学旅行生などに積極的にガイドを行う姿が見られた。

### ○課題

- ・一人暮らし高齢者訪問の取組では、高齢者の現状や気持ちに寄り添った言葉かけや接し方について細やかな事前指導と事前準備の必要がある。
- ・クリーンアップ諏訪川・有明海の取組における、水質やゴミ調査では、時期の選定と回数の検討やGTとの綿密な打合せが必要である。
- ・駿馬の魅力発信プロジェクトの取組では、本年度は、子どもボランティアガイドを行う日時が不定期であったため、次年度は感染症対策を行いながら可能な限り定期的実施していくことが必要である。
- ・子どもたちの実践を持続させるためにも、中学校との連携や接続を見通したカリキュラムの作成が必要である。